赤磐市都市計画マスタープランに関するパブリックコメント（市民意見）

いただいたご意見等	市の考え方
<p>市素案のプランに対する向こう20年間の推定概算予算はどの程度と想定されていますか。</p>	<p>都市計画マスタープランは、今後の市の都市計画に関する基本的な方針として、将来の都市像を設定し、市街化区域や市街化調整区域、都市計画区域外の土地利用に関する計画を中心に策定するものです。</p> <p>第4章全体構想の「施設整備の方針」で各種都市施設の計画を掲載していますが、予算は、市総合計画や実施計画において検討することになります。</p>
<p>P15「計画的な土地利用の推進による住みよい都市づくり」とか「自然や歴史を活かしたうるおいのある都市づくり」は、具体的にどのようなことを目指しているのかまったくイメージできません。「用途の混在を防止するなど居住環境に配慮した計画的な土地利用を推進します。」とありますが、具体的にどういうことを意図されているか説明ください。</p>	<p>P15 都市づくりの基本目標は、都市づくりの基本理念である、生活環境や活力とにぎわい、自然環境のある都市づくりに基づき、下水道、商業施設、道路の整備や土地利用計画、産業の振興などについて、4項目に別けて定めたものです。</p> <p>また、用途の混在の防止には、建築物の用途を定める用途地域を設定する必要があります。土地の利用において、専用住宅や商業施設、工場が一定の場所に混ざってあると環境がよくありません。そのため土地利用計画で建築できる建物の用途を定めるものです。</p>

いただいたご意見等	市の考え方
<p>P17「都市拠点」で都市機能の集積を図りますとありますが、集積を図らねばならない必然性等を説明してください。</p>	<p>P17 将来都市像の中で、都市拠点（市役所及び赤坂支所周辺）と地域拠点（熊山支所又は吉井支所周辺）を定めています。都市機能の配置については、生活する多くの人にとって利便性が高く、暮らしやすい都市をつくることが重要で、商業施設、会社、官公庁、病院などの多種多様な都市機能が集積し、住み、働き、訪れる人が交流する活力ある街づくりが必要になります。</p> <p>そのため計画では、都市拠点を市の中心拠点のみならず、県南東部地域の拠点として位置づけています。</p>
<p>P18「自然環境保全ゾーン」の中での「森林の多面的機能を有効に活用します。」とありますが、現実にはどのような期待効果等を考えているのか具体的に例示してください。</p>	<p>P18 将来都市構造の中で「ゾーン」を設定しています。これは、拠点と連携軸を中心に面的な広がりをもつ地域として、土地利用の方向を示したもので、市街地と農村環境保全、自然環境保全の3つのゾーンに区分しています。</p> <p>森林については、木材、水源涵養、災害防止、自然環境の保全機能の維持、生態系の保持などの利活用を推進します。また、優良林の維持として林道高星線（吉井地域）などを整備します。</p>